

3. アルコール・コルサコフ症候群における 領域特異的記憶リハビリテーション

○吉 益 晴 夫¹⁾ 加 藤 元一郎²⁾
三 村 将²⁾ 鹿 島 晴 雄³⁾

アルコール・コルサコフ症候群患者を対象にして認知リハビリプログラムを実施し、若干の知見を得たので報告する。

【対象】 駒木野病院入院中の男性アルコール・コルサコフ症候群5例。全例が断酒後最低半年を経過している。平均年齢は53.3歳、平均教育歴は12.0年、平均FIQ (WAIS-R) は91.3である。

【リハビリの方法】 毎週1回90分間のリハビリを行なった。訓練1：記憶系刺激訓練。リバーミード行動学的記憶検査を参考にして考案した訓練である。宝探し訓練（隠した品物を一定時間後に探し出す訓練）、目覚まし時計訓練（目覚まし時計がなったときに前もって指示しておいた行動をする訓練）などを行った。訓練2：見当識訓練。日付、場所、リハビリ参加者の名前を覚えさせる。訓練3：人名記憶訓練。病棟スタッフの25名の顔写真を提示して名前を想起させる訓練。顔写真を一枚ずつランダムに提示して名前の想起を促した。さらに、名前の想起ができてできなくても、人名の記憶を促した。効果の判定は、顔写真から名

前想起ができた数で行なった。訓練2と訓練3が領域特異的知識に関する訓練と思われた。

【結果】 神経心理学的検査の検査成績は、3カ月のリハビリ前後では変化がなかった（表1）。見当識訓練の結果は訓練後に改善を認めた（表2）。人名記憶訓練では、全てのケースで人名想起数が増加し、約4カ月経過した時点ではほぼプラトーに達した（表3）。最高想起数とFIQの間に有意な正の相関（ $r = .97, p = .02$ ）、想起数増分とFIQとの間にも有意な正の相関（ $r = .89, p = .04$ ）を認めた。一方、Rey Auditory Verbal Learning Test, Rey Osterrieth Complex Test, 自叙伝的記憶検査、個人史的意味記憶検査、Wisconsin Card Sorting Testの達成カテゴリーとの間には有意な相関は認めなかった。

【考察】 アルコール・コルサコフ症候群に対して領域特異的記憶リハビリテーションが有効であることが確認された。また、WAIS-RのFIQの高いコルサコフ症候群では低い群と比較してリハビリの効果が高い可能性が示唆された。

1) 駒木野病院精神科

2) 東京歯科大学市川総合病院精神神経科

3) 慶應義塾大学医学部精神神経科

